



あめ みず 雨の水（のもと）は、どこにあるの

あめ 雨のもとは、すいじょうき 水蒸気

みず たまりの水がなくなったり、せん 物の洗たく物がかわくのは、みず じょうはつ 水が蒸発してすいじょうき 水蒸気になり、くうき 空気 ちゆう で 中に出るからです。

うみ かわ みずうみ いけ じめん しょくぶつ 海や川、湖や池、地面や植物などから、みず じょうはつ 水はいつも蒸発して、すいじょうき 水蒸気になっています。

みなみ うみ たいよう はげ て 南の海では、太陽が激しく照りつけているので、たくさんのみず じょうはつ 水が蒸発し、くうきちゆう 空気中には、すいじょうき 水蒸気がたくさんふくまれていきます。

やがて、すいじょうき 水蒸気は、じょうくう 上空に上がっていきます。すると、すいじょうき 水蒸気は、じょうくう 上空のくうき 空気に冷やされて、ちい みず こおり 小さな水や氷のつぶになります。これがあつ 集まっているものがくも 雲で、くも 雲からあめ 雨が降ってきます。

あめ ふ 雨を降らせるくも 雲

あめ ふ 雨を降らせるくも 雲は、ふつう、そら たか 空のあまり高くないところ、あつ 厚みをもったくも 雲です。いちばんふつうのくも らんそうん 雲は乱層雲というくも あまくも ゆきくも 雲で、雨雲とか雪雲と、よばれているものです。そうん きりくも 霧雲とよばれているくも 雲からは、こま きりさめ ふ 細かい霧雨が降ってきます。

あめ みず うみ かわ みずうみ ちひよう みず 雨の水は、うみ かわ みずうみ 海や川、湖などの地表の水がもとになっています。そして、あめ ふ 雨になって降ったみず 水はかわ 川などをなが なが 流れて、また、うみ みずうみ 海や湖にもどってきます。それがまた、じょうはつ 蒸発してくも 雲となりあめ 雨になってちひよう 地表にもどってきます。このように、みず 水は、ちひよう そら あいだ 地表と空の間を、いったりきたりしています。（監修・村山 貢司）

